

リオ・デ・ジャネイロ日本商工会議所
会 頭 堤 寿彦



初春の頃、50年の旅の途中で。

リオ・デ・ジャネイロ日本商工会議所の創立50周年を祝うにあたり、その歴史の大きな節目を皆様と慶賀致しますと共に、その足跡を未来に残し、また将来の商工会活動への期待を託す意味も込めて、この記念誌‘創立50周年-更なる未来へ’を企画・発行することと致しました。

本年は、日頃交流の深いリオ日系社会の中にも50周年を共に迎える団体が幾つかあり、諸先輩が築かれた50年の活動の一場面や、その中で、人々の出会いや別れ、折々に企画したイベントでの出来事など、当地の話題に登る場面も多く、改めて人の繋がり大切さを噛み締めています。今回、その長きに亘る商工会活動が評価され、外務大臣表彰という栄誉を賜りました。夫々のお立場において、この50年の商工会活動を支えて頂いた諸先輩、及び内外の皆様に謹んでご報告すると共に、心から敬意を表し、御礼を申し上げます。

50年の間に、日本は元より、世界の政治経済も目まぐるしく変化し、ブラジルもその猛烈な荒波の中で幾多の困難も経験して来ました。その中で、リオデジャネイロは、当国の政治・経済・文化の要衝都市として大きな存在を保ち続けています。会議所創設5年後の首都移転、政治体制の変容、経済の地盤沈下、インフレ問題など、当商工会議所の活動も、まさに左様な荒波を乗り越って今日を迎えました。

商工会は、現在、個人も含め総勢59社の会員を擁していますが、相互の連携を計り、日系社会との交流、安全・治安面も含めた企業環境の改善・種々情報交換、教育を含む地域社会への貢献などを旨として活動を行っています。

本誌発行と併せて企画致しました9月23日の50周年記念式典は、日頃お世話になっている大勢の方にご列席を賜り、盛大且つ成功裡に挙行することが出来、改めて、周囲の方々の暖かい眼差しと、当商工会活動への今後の期待を感じた次第であります。

この50年を礎に更なる活動を重ね、今後、益々求められる日伯間の関係深化・向上に少しでも貢献すべく、地域に溶け込んだ存在感のある商工会議所活動を目指し度いと思います。

最後に、本誌発行に当たり、お祝辞・ご寄稿を頂いた皆様に心より御礼を申し上げますと共に、同記念誌作成に当たり種々準備を頂いた会員の皆様の労をねぎらい、私の巻頭のご挨拶と致します。